

地域再生計画（地域再生基盤強化交付金）事後評価調査

都道府県名	新潟県	事業実施主体	新潟県、長岡市	地域再生計画名	長岡市「越路・小国地域の優れた自然環境と観光資源が広域的に連携した観光交流ネットワーク」
計画期間	平成20年度～平成24年度	評価責任者	新潟県長岡地域振興局農林振興部長、新潟県長岡市土木部長		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	森林整備面積	44ha	H19	-	-	57ha	H24	59ha	○	森林基幹道及び森林管理道の整備により、利用区域内の森林整備が促進され、目標値を達成できた。
	指標2	観光客入込客数（計画区域内）	442,850人	H14	-	-	500,000人	H24	308,463人	△	補完指標のとおり、計画区域内への流入や観光入込客（市内全域）の大幅な増加に寄与したものの、地域内への滞留が少なく、目標達成には至らなかった。しかし、減少傾向（過去10年間で）が下げ止まって増加傾向（直近3年間）へ転じたことから、改善が図られつつある。
	指標3	広域観光ルートの形成	78分	H18	-	-	62分	H25	68分	△	一部未開通のバイパス区間が残ったことから目標達成に至らなかったが、継続して整備を進めており、開通後の達成見通しが立っている。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1	スマートインターチェンジ利用者数	-	-	-	-	1,100台	H24	2,290台	○	【上記①指標2を補完する指標】長岡南越路スマートインターチェンジの利用促進によって、当初の想定に対して2倍を超える利用があり、計画区域内への流入人口の増加へ大きな効果があった。
	指標2	観光客入込客数（市内全域）	6,548,410人	H14	-	-	7,200,000人	H24	7,855,600人	○	【上記①指標2を補完する指標】市内全域及び計画区域の近隣地域の観光入込客が増加したことから、当初の想定に反し、より広域的な波及効果が顕現した。
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価					
			計画	中間年度（H22）	最終実績						
特別措置を適用して行う事業	市道越路121号線ほか（L=660m） ＜長岡南越路スマートインターチェンジ＞		0.66km	0.66km	0.66km	早期の竣工により、交流人口の増加及び拡大へ大きな効果を顕現した。今後はスマートインターチェンジへのアクセス道路の整備を進め、さらなる広域交流の促進と道路ネットワークの強化を図ることにより、交通利便性の向上はもとより、広域災害時のバックアップ拠点としての機能補完など、広域的な視点に立った道路整備を推進していく必要がある。					
	市道越路445号線（L=997m） ＜越路原バイパス北側＞		1.00km	0.00km	0.80km	早期の竣工により、沿線の観光資源の活用が促進された。さらに、防災拠点である越路防災ひろばへのアクセス性も向上し、防災機能の強化を図ることができた。					
	市道越路817号線（L=1,700m） ＜越路原バイパス南側＞		1.55km	0.08km	0.78km	想定外の軟弱地盤への対応によって未完成区間が残ったことから、全線開通を目指して引続き整備を進め、地域間の連携強化や広域観光ルートの形成はもとより、豪雨時通行不能箇所のリダンダンジーを確保する必要がある。					
	林道八石山線（L=1,800m） ＜森林基幹道＞		1.80km	0.92km	1.30km	林道の整備により、利用区域内において、間伐・保育などの施業面積が拡大し、森林整備の進捗が図られた。引続き、残区間の整備を進めることにより、路線の連結に向けて整備を推進する必要がある。					
	林道八石山南線（L=2,048m） ＜森林管理道＞		1.79km	0.82km	2.05km	林道の整備により、利用区域内において、間伐・保育などの施業面積が拡大し、森林整備の進捗が図られた。					
その他の事業	特産物のブランド化		「八石米」・「小国ぎんなん」のブランド化			道路ネットワークの形成により、特産品の知名度が向上して産業振興に貢献した。また、合併地域それぞれが、お互いの特産品を販売を通じて新たな交流が生まれた。さらなる知名度向上を目指し、より一層の販促促進を図っていく必要がある。					
	へんなかツリズムの展開		農山村地域の滞在・体験型観光の推進			森林レクリエーションコースと観光施設とが連携した観光交流ネットワークコースに7つの田舎体験メニューを展開した。2軒の農家民宿が誕生するなど、徐々に取組みの成果が上がっている。引続き、					
	地域防災マップ整備事業		地域住民で結成した自主防災組織による防災マップの整備			緊急輸送路となる道路整備に合わせて防災マップを作成を推進したことにより、地域防災における住民参加型の防災体制の構築、及び、住民の防災知識・意識が向上した。					
計画外で独自に実施した事業	長岡南越路スマートインターチェンジの利用促進		利用300万台到達イベントの実施、利用促進パンフレットの作成、配布			利用300万台到達を記念し、利用者100名に記念品を贈呈。スマートIC通信やドライブコース、うめもんガイドなどを作成・配布し、計画期間の前半に開通したインターチェンジを広くPRしたことにより、スマートインターチェンジの利用が促進された。					
	越路原バイパスによる地域観光資源の活用①		地域観光資源（もみじ園）の活用促進			越路原バイパス北側区間の開通によってアクセス性が向上し、沿線にあるもみじ園周辺では、各種イベントが実施されるようになった。観光ボランティアによるガイドや中学校吹奏楽部による演奏など、地域一体となった取組みで来訪者の満足度向上につながった。今後は、案内誘導看板の設置やソフト施策などを推進し、より集客力を高める取組を図っていく必要がある。					
	越路原バイパスによる地域観光資源の活用②		新たな観光ルート「光と古の共演 越の路」の形成			約10kmにわたる光の演出をシャトルバスで楽しんでもらう回遊ルートを形成し、宣伝効果もあって広く認知されつつある。今後は、短期滞在から長期滞在への促進を図っていくことにより、観光振興への大きな効果が期待できる。					
	越路原バイパスによる地域観光資源の活用③		地元企業によるイベントの開催			整備路線を活用し、放送局と協力したジエマソンのイベントが開催されるなど、活性化に向けた新たな取組みが行われるようになった。今後も継続して実施していく必要がある。					
④評価方法	長岡市社会資本総合整備計画等事業評価監視委員会を開催し、評価結果に対する妥当性の検証及び今後の地域再生方策に関する意見聴取を行った。										
⑤事後評価の公表方法	長岡市（土木政策調整課）のホームページに掲載										
⑥計画全体の総合評価	道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的な実施により、林業振興、観光・交流人口の増加、交通円滑化などの効果を概ね発現できたと考えている。しかし、山間部で施工した工事の進捗の遅れや長岡南越路スマートインターチェンジ利用者の計画区域外への流出などは、新たな課題として認識する必要がある。目標値の達成状況では、広域観光ルートの時間短縮については、予定区間の工事の竣工によって計画目標の達成が見込まれるが、観光入込客数については、整備効果が顕現したものの、一層の努力を求められる結果となった。また、評価委員会から、今後整備計画を策定する際の考え方として、「もう少し広域的かつ多角的な視点で捉えた計画目標を掲げること」、「満足度を測る指標や身の丈にあった指標を設定すること」など、住民から親近感や注目される計画策定を行うことが望ましいとの意見が付けられている。										
⑦今後の方針等	本計画で残った課題については、全線開通を目指して残区間の継続整備を進めるとともに、長岡南越路スマートインターチェンジの利用者を地域内に滞留させるソフト施策を推進する。今後のハード施策では、来訪者に分かりやすく効果的な案内誘導、さらには、次のステージへ向けた高速交通体系の構築や災害時の代替性の確保など、より広域的な視点に立った道路ネットワークの形成を図っていく必要がある。また、ソフト施策の面では、交通弱者への配慮や利用者コースに即した公共交通機関との連携、大学との連携や空き家を活用した滞在型の観光交流、小国和紙のブランド化など、自然環境や観光資源を活かした産業振興や観光振興の可能性を発掘・検討し、将来を見据えた地域再生方策を進めていく必要がある。										